

令和6年度 第11回 豊田市稲武地域会議全体会 会議録

- 日 時 令和7年2月17日（月）午後6時53分～8時10分
- 場 所 稲武支所 団体会議室
- 出席者 委 員：安藤直人、石橋佳子、今泉喜規、海野浩、櫻井麻沙子、佐々木祐次、
瀧澤育夫、土本隆雄、土屋桂子、中拓二、西尾昌直、深見友和、
三江元博、宮島明菜
(欠席者)：高崎太一郎
市議会議員：松原議員
豊田市：太田市長、地域振興部能見室長
事務局：梅村支所長、岡部副支所長、柄澤副主幹、鈴木担当長、原田主査

■次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 提言
 - (1) 提言書授受
 - (2) 提言内容の説明
 - (3) 意見交換
- 5 市議会議員あいさつ
- 6 その他

■議事（要約）

- 4 提言
 - (2) 提言内容の説明
深見副会長から提言書の内容について説明。
 - (3) 意見交換
別紙のとおり

次回開催：令和7年3月19日（水）午後7時 稲武支所 団体会議室

意見交換の内容

市長	<提言内容に関する市長の感想> ・できることは全部行っていけば良い。支所の権限を増やしているので、支所とよく話してほしい。市内に画一的な制度設計で対応している取組については、所管課とよく調整したうえで、稲武ルールで実態に合う運用に切り替えてもらえば良いと思う。 ・稲武の暮らしの良さをどのように情報発信するのが重要である。例えば、IターンやUターンで豊田の山の暮らしを始めた人達が登場するような冊子や動画などで、具体的に情報発信していく方法もあるのではないかな。 ・高校に行くと稲武の外へ出ていくという話があったが、都市部で暮らしながら高校に通うことが、子ども達にとって本当に環境として良いのか、もしかしたら都市部で暮らすのは勿体ないのではないかな。
委員	<地域会議と市長の意見交換> ・都市部住民の目は山に向いていない。都市部で開催されるイベントなどを通じて、山の方に人が来るような流れが出来ればと思う。
市長	・足助は飯盛山にトヨタのヴェルブリッツが、旭はお須原山に企業の組合が入って活動をしている。素材は沢山あるので、そこに地元の人達がどのように入り込むかがポイント。沢山ある素材を対外的にどの様に情報発信するのかも考える必要がある。
委員	・関係人口を増やして地域を盛り上げることが、コミュニティ存続の1つの道だと思う。
市長	・関係人口を増やすことについては、集落間でお祭りを応援するなど、身近な人達で行き来し合う関係人口というのも大きい。 ・無い物ねだりをするより「有ること探し」の方が楽しい。有ること探しをしていくと「このやり方の方が良い」「稲武方式の方が良い」ということがあるのではないかな。 ・高齢者が多くて子どもが少ないというのは、1人の子どもに目をかけてくれる大人が多いということ。地域の元気な高齢者が子ども達に寄り添うような仕掛けを作ることが出来れば、子どもにとってこれほど良い環境はない。稲武の強みを最大限に生かした子育て・子育て環境が考えられると良い。
委員	・放課後の小学校校庭を活用しようとしている団体があるが、学校という場の活用がなかなか難しい。今有る学校を活用することにサポートがあると良い。
市長	・学校の件は、学校という場を「教育の場」、「学童保育」、「社会体育」で使うという3段階で活用できないか検討している。ただ、「学童保育」と「社会教育」で活用する場合の責任の所在をどうするかということが課題となる。地域の仕組みの中でそこを担ってもらえるのであれば、今後深掘りしていく意味はある。